



野村不動産ホールディングスの執行役員に聞いた

今、活かされる 理科大MOTでの学び

2016年3月に理科大MOTを修了した宇佐美直子さん。2019年4月から野村不動産ホールディングス初の女性執行役員となり、現在は、ダイバーシティ&インクルージョン推進担当兼人材開発部長嘱託として、活躍されています。現在の仕事に活かされている理科大MOTの魅力についてお伺いしました。

MOTとは

東京理科大学大学院 経営学研究科 技術経営専攻(MOT)は、社会人のためのビジネススクール(専門職学位課程)です。学生の平均年齢は40代前半であり、理系出身者が多いのも特徴です。学生は業務後の平日の夜間と土曜日に、講義やゼミを受講しています。

未知の世界で自分を試したかった

岸本：まず入学のきっかけを教えてください。

宇佐美：人事部長に声をかけていただき企業派遣として2014年4月に入学しました。当時、私は営業担当の部長で、小学生と中学生の娘2人を抱えており、仕事と子育てに大忙し。MOTに通えるか不安でした。でも家族の皆が背中を押してくれたので、決断しました。実際、私も娘たちと一緒に毎晩リビングで勉強をした、思い出深い2年間でした。

岸本：入学前、理科大MOTには、どのようなことを期待していましたか。

宇佐美：いろいろな業種・職種の人がいる中で、自分自身の社会人経験がどこまで通用するか知りたいと思いました。特にMOTの学生には、理系出身の技術職や研究職の方が多く、未知の世界で、文系出身の私がかつてやれるか、実験したいという気持ちでした。

岸本：実験ですか。面白い発想ですね。実際に入学してどうでしたか。

宇佐美：予想以上に多様性があると感じました。やはりMOTの同期はこれまでの私の人生では出会わなかったような方たちばかりでした。そういう方々の議論は楽しく濃密で刺激的、驚きの連続でした。

岸本：MOTで得た最大の成果は何ですか。

宇佐美：いろいろな講義があり、多くの文献を読んでレポートを書きましたが、「どのつまり、ここで問われていることは何ですか?」という点を考えて続けた2年間でした。そのため、現在、仕事上で何か問題が発生したとき、「ここで問われている真の問題は何だろう?」と考えるようになったことですね。

岸本：通常、ビジネススクールは、問題に対する答えを見つけに来る場所、問題の答えを見つける方法を学びに来る場所だと思いがちです。しかし、宇佐美さんは、「問題が何かを考える姿勢が身についた」とお

しゃっています。これは非常に興味深いお話です。課題解決力ではなく、課題探索力や課題構築力が最大の成果だったというわけですね。

宇佐美：2019年4月からは執行役員となり、現在は担当の一つとして人材開発に尽力していますが、今まさに痛感するのは「ここでの真の問題は何か」を問うことの重要性です。これは核心を突いた問いであり、普遍性と汎用性をもっているからこそ、あらゆる場面で生きてくると感じています。

岸本：宇佐美さんは野村不動産ホールディングスの中では女性の執行役員第1号と同じでした。現在、ダイバーシティ&インクルージョン推進担当もされていますよね。

宇佐美：まずは、「ダイバーシティ&インクルージョンをなぜやるのか。なぜ今、当社に必要なのか」を明確化する必要があると考え、その結果を「野村不動産グループダイバーシティ&インクルージョン推進方針」としてまとめ、社内外に公表しました。また、中長期計画として推進ロードマップも示しました。私はそれらを作るため、2人のメンバーとともにフィールドワークを実施しました。さまざまな業界の企業、取引先の経営陣、社員、投資家、アカデミックの方々に意見を聞いて回りました。その結果、おのずとキーワードが浮かび上がってきました。

このようなプロセスを経たからこそ、自分自身、納得のいく内容に仕上がりました。ここでも、MOTでの経験が非常に活かされたと感じています。

岸本：宇佐美さんが到達したダイバーシティ&インクルージョンの定義は何でしょう。

宇佐美：当社グループでは、ダイバーシティ&インクルージョンとは、「全社員が、自分はこの組織に受け入れられていると感じることができていること」です。多様な人がいる中で、「お互いに尊重しなさい」というのではなく、一人一人が「自分は受け入れられていると感じる」ということが重要だと考えました。そしてこの目的は、福祉ではなく、イノベーションの創出です。

岸本：世間でよく目にするダイバーシティ&インクルージョンの多くが、「こうあってください」というマネージャー側の視点に立った定義であり、受ける側である従業員やステークホルダー側の視点に立った定義ではないように感じています。その点で、御社の定義には独自性を感じます。また、目的も福祉ではなくイノベーションという点、とても深く考えられていると思いました。

理科大MOTの魅力とは

岸本：最後に理科大MOTの良さを聞かせてください。

宇佐美：それは、修了後10年近くも経つ

今だからこそ言えることですが、継続的にこのネットワークにいられることです。「いつでもゼミに参加していいよ」と声をかけていただけますし、MOTの同期とは今でもつながってでなく、私の悩みを解消してもらっている。私の悩みがMOTにとって1つの素材提供にもなっているため、ギブ・アンド・テイクの関係だと思っています。

岸本：課題解決型や知識提供型ではなく、課題探索型や課題構築型であり、多様性をもち、ギブ・アンド・テイクの関係にある強いネットワークこそが、理科大MOTの最大の財産であるということですね。本日は貴重なお話をありがとうございました。

宇佐美：こちらこそありがとうございました。

宇佐美 直子

野村不動産ホールディングス株式会社 執行役員 / グループ人材開発部長

執行役員 / グループダイバーシティ&インクルージョン推進担当兼グループ人材開発部長。1993年野村不動産入社。分譲マンションの販売を経験後、99年ビルディング営業部に異動。2000年に第1子、02年に第2子を出産。09年よりPMOシリーズに携わり、13年よりビルディング営業2部長に就任。2019年4月に同社初の女性執行役員となり、2022年4月より現職。



学費では国の給付金が活用可(最大112万円)理科大卒業生は入学金半額免除

MOTには、理科大卒業生の方も多数在籍しており(直近6期では27名が入学)、お子様が理科大生の方もおられます。

理科大卒業生の方は、入学金が半額免除になります。さらに本学MOTは2023年8月に、厚生労働省の教育訓練給付金(専門実践教育訓練)の対象講座にも指定されました。これにより2024年4月入学の学生には、所定の条件と手続きを満たせば、国から最大で112万円が給付されます。

10月以降、MOTでは入試広報イベントを続々と開始し、理科大オープンカレッジでも全5回の短期講座「MOT入門」を開講します。

スタディサプリでは、MOTの概要をコンパクトに紹介しております。MOTのHPでは、給付金の詳細説明や各種イベントのWeb申込受付を行っております。ご関心を持たれた方はぜひ一度、右記のQRコードより各ページにアクセスしてみてください。



理科大MOT

スタディサプリ

理科大オープンカレッジ



岸本 太一

東京理科大学大学院 経営学研究科 技術経営専攻(MOT)講師

一橋大学大学院卒業。一橋大学大学院修士課程経営学専攻コース修了。一橋大学大学院商学研究科博士課程後期課程修了。博士(商学)。同大学院商学研究科特任講師。東京大学もつくり経営研究センター特任助教、敬愛大学経済学部准教授を経て、2014年東京理科大学大学院イノベーション研究科講師に就任し、2018年4月より現職。